

# 介護講師研究会レポート ～2024年度 介護講師研究会の報告～

上山 小百合\*

## はじめに

介護講師研究会は、2018年3月より大阪より開催している。毎月1回のペースで継続している。目的としては、「介護講師に求められる知識・技術の習得と実践」を目指している研究会である。参加者は、介護福祉士、看護師などの介護分野に関連した介護講師、また、現場で継続して働いているケアマネジャー、管理者、介護職員に方で構成されている。2024年度は、特に専門分野で実際に働いている方を招き、実践内容や事例検討などを行うことができることと、または模擬授業などを通して、他の教育担当の方の指導の工夫や指導スタイルや指導デザインの新しい学びの機会を増やすことを重点においた。

## 2024年度の毎月のテーマ内容

4月 防災・減災

5月 授業のポイント

6月 障害支援の担当者より障害の理解について

7月 リテラシー

8月 模擬授業① 3名

9月 ダブルケア

10月 高齢者の在宅や高齢者施設等で起きる緊急時の救急時対応について

11月 模擬授業② 1名

12月 終末期医療について

### ① 4月 「防災・減災について」

参加者は、12名内オンライン1名

キーワードとしては、

- ・模擬訓練
- ・地域住民と一緒に
- ・ローリング・ストック
- ・防災グッズ
- ・津波が来た時の対応方法
- ・地域ごとでできること（井戸の活用など）
- ・ハザードマップ

### 参加された講師からの感想

- ・高齢者施設では、避難訓練はしている本当に実際に災害が起きた時に、活用できる訓練なのかが疑問である。
- ・施設の地域性や避難場所の確認などハザードマップの見かたを理解する必要がある。
- ・避難訓練だけでなく、備蓄状況の点検や地域住民との意見交換などが必要である。

### ② 5月 「授業のポイント」

参加者は、12名で3つのグループで現在の授業の工夫していることについてディスカッションを実施する。

キーワードは、

- ・クリティカルシンキング
- ・ロジカルシンキング
- ・ラテラルシンキング
- ・楽しく
- ・集中できる
- ・意欲的に
- ・繰り返し使える
- ・伝え方の工夫
- ・外国人への指導

### 参加された講師からの感想

- ・伝える順番や伝える構成・題材・範囲が重要である。
- ・伝える側が「どれだけイメージできているか？」がポイントである。

### ③ 6月 「障害支援の担当者より障害の理解について」

障害事業所の管理者の方から1時間30分対面で障害者（児）の日常の生活の支援について講演して頂く。

参加者は、16名が対面で実施する。

キーワードは、

- ・障害の方の困りごと
- ・サービス内容
- ・ご家族のサポート内容
- ・支援する立場として
- ・ライフステージ

### 参加された講師からの感想

- ・障害の方のライフステージに対応した支援が大切である。
- ・早期から、就労につながる支援方法やSSTの活用をしていくこと。
- ・障害の方が働く場所を知ること、または収入について（障害年金や就労A、Bなど）や給料体系を知り支援していく。

### ④ 7月 「リテラシー」

参加者は、10名参加者全体で意見交換する。

キーワードは、

- ・リテラシーの意味
- ・日常的に意識
- ・価値観の多様化
- ・とらえ方や表現方法

### 参加された講師からの感想

- ・リテラシーの言葉の意味を正しく理解し、活用していくことが時代と共に求められる。
- ・学校や職場でのリテラシー教育を伝えていく必要がある。

### ⑤ 8月 「模擬授業①」

参加者は、18名内オンライン1名で、3名の方が講師としてテーマごとの内容のレクチャー1人30分で模擬授業を実施する。

### ① 介護の考え方

### ② 認知症の理解

③ 介護保険制度ができるまでの背景と内容の違い  
キーワードは、

- ・違いの理解
- ・正しい表現
- ・資料提示
- ・イメージ力の共有
- ・講師の価値観の偏り
- ・情報のアップデート

### 参加された講師からの感想

- ・他の講師の指導内容について、時間調整や伝える工夫があり、参考になった。
- ・ホワイトボード活用、参加型、PowerPointなど3人の伝え方に違いがあった。
- ・講師の言葉にあいまいな表現があると、受講生には不安が残る。
- ・現在の新しい情報を使えることが大切である。

### ⑥ 9月 「ダブルケア」

参加者12名 3つのグループで意見交換する。

キーワードは、

- ・ダブルケアの定義
- ・人それぞれの価値観
- ・家族支援の重要性
- ・制度を知る、制度を活用する
- ・1年間に10万人の介護離職

### 参加された講師からの感想

- ・現代の社会課題であるので、身近なインフォーマルサービスを強化していく支援が必要である。
- ・地域のネットワークや地域のつながりを強化していくイベントや交流の時間の確保が求められる。

### ⑦ 10月 「高齢者の在宅や高齢者施設等で起きる緊急時の救急時対応について」

参加者16名内1名はオンライン

元救急隊員による、救急車の要請の手順や高齢者の救急対応について講演して頂く。

1時間講義、30分実技、30分質疑応答（事前アンケートを基に）

キーワードは、

- ・事前打合せ
- ・アンケート
- ・知りたい内容と聞きたい内容が合致する
- ・救急車の要請の時に、実践しておくこと（シートや、イス）
- ・玄関先からの動線の確保
- ・救急隊員への説明で教えてほしい内容

- ・終末期の事例
- ・体の変化
- ・多職種連携
- ・傾聴
- ・在宅医療の発展
- ・日々の変化
- ・積み重ね

#### 参加された講師からの感想

- ・具体的な実践内容が学べた。
- ・いつもは聞けないことを冷静に聞いた。
- ・予防や事前準備の重要性が理解できた。

#### 参加された講師からの感想

- ・現役の医師より、直接お話を聞く機会を持てたことがよかった。
- ・地域で生活する高齢者に対する在胎医療ができることの幅広さに驚いた。

#### ⑧11月 「模擬授業②」

参加者15名内オンライン1名

看護師の方が、医療的ケアの授業の内容や備品等の使い方の説明の模擬授業を実施する。1時間30分講義、30分質疑応答。

キーワードは、

- ・医療的ケアの必要物品を直接見る、触る。
- ・医療的ケアの歴史
- ・医療的ケアの制度
- ・医療的ケアの目的
- ・介護福祉士と看護師の連携

#### まとめ

2024年度は、各専門職の方に直接来ていただき、新しい情報と具体的な内容の確認作業ができた。また、特に医療関係者との連携のお話が多くとれたこと、参加者の方の模擬授業の実施など新しい内容のテーマとなった。来年度は、BCPの具体化やコミュニケーションに関する専門スキルを学べる機会や時間を広げていきたい。

#### 参加された講師からの感想

- ・実際の医療的ケアに必要な物品の取り扱い方法を知れた。
- ・胃瘻、気管カニューレなどの体の中に入っている部分のことなど、いつも聞けない内容が理解できた。

#### ⑨12月 「終末期医療とは？」

参加者15名内オンライン1名（場所は別の場所を借りる）

総合病院で働く医師より、現在の終末期医療についての理解と事例発表の講演して頂く。

キーワードは、

